



はらじゅくかわら版

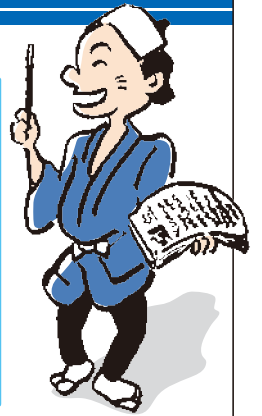
独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



謹賀新年



病院屋上にて

左より：藤澤看護部長、小松臨床研究部長、古谷副院長、鈴木院長、宇治原副院長、小嶋事務部長

第74号 目次

院長新年挨拶	1
病診連携施設紹介	2
戸塚区医師会会長挨拶	
新任医師紹介	3
連載	4
第28回 看護部 手術室	
行事紹介	
第57回楓葉祭	5

行事紹介

クリスマスデコレーションから	6
外来担当医表／編集後記	7

発行 月：令和4年1月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：鈴木 宏昌
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : <http://www.yokohama-mc.jp>



●当院携帯サイトはこちらから

院長年頭挨拶

新年あいさつ



院長 鈴木 宏昌

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症流行に一段落がついた状況で年末年始を迎える事ができました。

昨年、重症者が多発したコロナ感染症第三波の真只中でしたので、我々医療者にとって2年ぶりの穏やかな正月だと感じています。これはワクチン接種の進捗による成果です。短期間で開発された新型のワクチンで、副反応の問題もありましたが、皆様のご協力により接種率が上がり集団免疫効果が得られたと考えます。ただコロナ変異株(オミクロン株)感染症が世界的に拡大しています。落ち着いた社会を継続するためには、ワクチン追加接種(ブースター接種)が最も有効です。心配された追加接種の副反応は2回目接種と同等と報告されています。ぜひ積極的に接種を受け、さらにマスクや手指衛生等の基本的感染防止対策を継続するようお願いいたします。

今号は新年号ですので、昨年を振り返り、今年の当院について書かせていただきます。

令和は災害の時代です。昨年も大雨による土砂崩れに加え、東京オリンピックを狙ったような「災害級」のコロナ感染症第五波が日本全体を襲いました。当院は全病院体制でコロナ患者を診療してきましたが、第五波では高度医療が必要な重症者対応に特化、2病棟を高機能病棟(HCU)に変更、医療者集約のため1病棟閉鎖という過去に経験のない体制で対応しました。同時に地域

での役割分担(軽症者等の受け入れ)を目指し、地域病院の体制作りを援助しました。これにより地域でコロナ患者を診療する体制ができ、災害級の波を乗り越えられたと考えます。ご協力いただいた先生方、病院関係者にお礼を申し上げます。本年コロナ感染症に関しては、感染と重症化を防ぐワクチン追加接種と地域病院・診療所との連携体制で、「恐るるに足らず」とまでは言えませんが、十分「対応可能」だと考えています。

さて、報道では昨年の全死亡者数が予測より多く、その要因としてコロナ感染症に加え、他疾患での死亡者数増加が考えられています。確かに当院でも重症症例の受診が増えている印象があります。これは緊急事態宣言や自主的な外出制限による受診控えの影響と考えています。ぜひ適切な定期的診療や検診等をお受けいただくようお願いいたします。

新年度、当院は能力の高い中堅医師を複数の診療科で受け入れます。さらに院内改装と災害拠点病院としての能力向上ための工事を実施します。当院はこの地域の拠点病院として、どのような状況下でもコロナ感染症と高度医療提供体制の両立を達成いたします。

持病が悪化した場合や検診で異常が発見された場合、ぜひ能力の高い当院での検査・治療をご検討ください。今年も当院をよろしく願います。

病診連携施設紹介

戸塚区医師会会長挨拶



一般社団法人
戸塚区医師会会長
下倉田ハートクリニック院長
悦田 浩邦

新年あけましておめでとうございます。令和元年6月から戸塚区医師会の会長を務めています。会員264名を代表して、新年のご挨拶を申し上げますとともに、今年が幸多き一年となることをこころよりお祈り申し上げます。

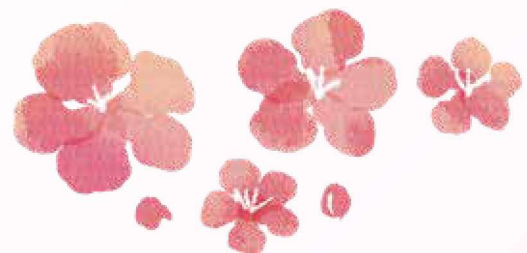
一般社団法人戸塚区医師会は、休日急患診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、在宅医療相談室を運営し、医療、介護、福祉の分野で総合的に横浜市行政と連携して活動を行っています。個々の会員は、各種健診や予防接種の実施の他、学校医・幼稚園医・保育園医、介護保険審査員、地域ケアプラザ協力医などを担当しています。また、輪番制で休日急患診療所へ出動していますが、令和2年6月からはPCRドライブスルー検査所での検体採取業務と、昨年5月からは集団接種会場での予診担当業務が加わりました。

戸塚区内には横浜医療センターをはじめとして14の病院があります。病院同士の連携強化(病病連携)、診療所と病院のスムーズな情報のやりとり(病診連携)、地域の診療所同士の協力体制(診診連携)は以前に増して強固になっていると感じています。とくに、第3波、第5波で病床が逼迫した際には、横浜医療センター主導の「病病連携」により、患者さんの重症度に応じた病院の役割分担が決められました。また現在は、「第6波」

への備えとして、第5波の反省に基づき、自宅療養者を支援する仕組み(コロナサポート戸塚)作りに、横浜市行政の指導のもと戸塚区医師会として取り組んでいるところです。

第5波が過ぎた今、私たちは以前のように横浜医療センターで安心して高度で専門的な医療を受けることができるようになりました。一方で、コロナ禍という特殊な状況では、それが当たり前でなくなるという現実も経験いたしました。コロナとの付き合いはしばらく続くと思います。平時のみならず災害時に於いても、必要な医療が安心して受けられる仕組み作りに、医師会は行政と医療従事者と市民とのパイプ役として、役にたてるよう今年も微力ながら頑張りたいと思います。最後になりましたが、横浜医療センターのスタッフの皆様のお仕事に心より敬意を表するとともに、益々のご活躍を祈念しております。

医療や介護についてお困りのことがあればお気軽に戸塚区医師会までご相談ください。



新任医師紹介

外科部長挨拶



外科部長 藤井 義郎

2021年12月1日より国立病院機構横浜医療センター外科部長へ就任することになりました藤井義郎と申します。私は、1991年に横浜市立大学医学部を卒業した後、国家公務員共済組合連合会虎の門病院で2年間研修し、横浜市立大学第2外科に入局しました。入局後すぐに、当院（当時は国立横浜病院）の外科レジデントとして1年間、勤務した経験があります。その後、肝胆膵外科を専門として、横浜市立大学附属病院及び第2外科関連病院で主に肝胆膵の悪性疾患に対する手術を行ってきました。2009年に故郷である宮崎県に戻り、9年間、宮崎大学医学部附属病院肝胆膵外科で、更に研鑽を積み、肝胆膵外科学会高度技能指導医の資格を活かして後進の指導に当たりました。2018年4月から、縁あって母校である横浜市立大学消化器・腫瘍外科（旧第2外科）へ再入局する機会を頂き、横浜市民総合医療センター、横浜市立市民病院で勤務後、この度、横浜医療センターで勤務させて頂くことになりました。医師という職業は、専門性を追求する技術職で「職人化」を極める仕事であるのと同時に、安全で系統的、効率的な診療のためには病院という組織の中で「組織化」を要求される仕事でもあります。医師は「職人化」に特化することは得意ですが、「組織化」を求められると、特に経験が浅い時期には少々疎ましく感じてしまうのはある程度仕方ないことかもしれません。管理者は一見、この相反す

る行為を、徹底的にレベルアップした「物の見方・考え方」の自己完成論理を持って、奉仕の論理に変えることで、両者を協調させなければなりません。これまで、様々な病院で培ってきた経験を、新天地となります横浜医療センターでも活かしながら、質の高いかつ安全な診療、後進の育成に当たっていく所存です。肝胆膵領域の癌は根治が難しい消化器癌の一つであり、また、肝臓や膵臓を切除する手術は術後合併症が起りやすく、ときに致命的な状況に陥ることもあります。私も良くも悪くも様々な経験をして参りましたが、現在でも根治性と安全性の両方を備えた手術を日々、追求し続けております。これまで、高度進行癌に対して行った難易度の高い手術より回復し、根治が得られた多くの患者さんから感謝の言葉を頂きました。横浜医療センターでも患者さんに寄り添い、心から感謝されるような医療を行っていく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



第28回 看護部 手術室

手術室看護師長 柏倉 佐江子

今回は「看護部 手術室」の紹介です。

みなさんは手術室の看護師の働きをご存じですか？テレビドラマのシーンで看護師が器械をパッと渡している姿が印象的ではないでしょうか。



手術室看護師の役割は大きく2つ、「器械出し看護師」と「外回り看護師」があります。「器械出し看護師」とは、医師たちが手術に集中できるように、コミュニケーションを図り、迅速かつ正確に器械を準備します。手術のシーンで医師に「メス！」と言われ、颯爽とメスを渡すのが、「器械出し看護師」です。「外回り看護師」は手術がスムーズに進行できるように、必要物品の準備や環境整備、麻酔の介助、患者さんの状態を観察し記録するなど手術を間接的にサポートします。

手術室は8室あり、手術室看護師は36名です。手術件数は年間約6,000件以上で、外科や整形外科手術だけではなく、心臓血管外科や脳神経外科などの緊急性の高い手術にも、年中無休、24時間オンコール体制で対応しています。



当院は2016年から脳死下での臓器移植にも取り組んでいます。手術室看護師も院内コーディネーターとして、目の前で命のバトンが繋がる瞬間に立ち会い、家族ケア、院内調整、手術全般のサポートを行っています。



さらに当院は術中麻酔管理領域の特定行為研修指定研修機関でもあります。研修は麻酔科医から直接指導を受け、当院の手術室看護師1名が修了しました。

。地域医療構想の実現、地域包括ケアシステムの構築に貢献できる看護師の育成を目指しています。

2019年11月に中国湖北省で発生した新型コロナウイルスによる新型コロナウイルス肺炎は、世界的感染拡大となり現在も警戒しているところです。当院の手術室においても新型コロナウイルス感染症の患者が手術をする場合の対応をシミュレーションしマニュアルを策定しました安全で安心な手術室の運営を目指して日々努力しています。



行事紹介

第57回楓葉祭

横浜看護学校

10月28日金曜日に第57回楓葉祭（学校祭）を開催しました。テーマは「転化禍福」です。例年は地域の皆様にご来場いただいておりますが、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染防止のため一般公開を中止しました。

午前には各学年の代表者が看護について発表し、参加者と意見交換を行うシンポジウムを行いました。シンポジウムの発表内容は、戴帽式を終えた1年生は「目指す看護師像」をテーマに4名、基礎看護学実習を終え専門領域別実習を控えた2年生は「私が大切にしている看護」をテーマに2名、3年生は「ケーススタディ」を2名の計8名の学生が発表しました。学年ごとに分かれ、メイン教室と各教室を中継する方法で全員が参加し、シンポジストと参加者による活発な意見交換が行われました。昨年と同様シンポジストの発表に対して学生一人ひとりが感想や質問を付箋に書き、ホワイトボードに掲示しました。ホワイトボードは多くの付箋で埋め尽くされ、質問に対しては後日発表者が回答しました。

午後の部では昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学生交流ができなかったため、今年度は学生の希望を取り入れ学生自治会主催のクイズ大会を実施しました。学校長も参加し、時事問題や看護師国家試験問題、教員自身に関する問題等のクイズに挑戦しました。3学年混合のグループとなり、一問一問相談しながら取り組みました。学年を越えた交流ができ笑顔があふれる一日となりました。

来年度は以前のように地域の方々と交流ができることを楽しみにしています。



シンポジウム：発表者と学生からのコメントの付箋です。



シンポジウム：発表の様子です。



交流会（クイズ大会）：学校長も参加しました。



交流会（クイズ大会）：3学年混合のグループで問題に取り組んでいます。

行事紹介

クリスマスデコレーションから

医療サービス推進委員会（庶務班長） 細入 憲

10月末に実施した玄関ホールでのハロウィンの飾り付けに、患者さんから高評価を頂いたため、クリスマスの飾り付けも例年よりは豪華にしたいと個人的に考えていたところ、事務部長から「今年は工夫をこらして、各部署でもクリスマスの飾り付けやイベントなどを考えてはどうだろう。」という思いも掛けない提案を頂いた。これまでは玄関前ロータリーに植樹した樺（当院では「シンボルツリー」と表現している。）へのクリスマスイルミネーションと玄関ホールに小さめのツリーを飾るのみだったが、患者さんに更に喜んでいただけるよう、医療サービス推進委員会や職員の皆様にもお力添えを頂いて少しずつ取組を始めた。



まずはイルミネーションの追加として、シンボルツリーに加え玄関横の生け垣にも青と白のイルミネーションを飾り付けた。飾り付け前には事務部長自らが生け垣の剪定をしていただいたことから、設置した業者の方からも飾り付けの手間が半減し、光もより映えるとの評価をいただいた。



さらに玄関ホールには新しく新調したクリスマスツリーを置き、平行して各部署でも様々な飾り付けをして患者さんへの癒やしを演出した。また、栄養管理室では



配膳担当がサンタのコスチュームで各病棟を周り、特に小児科では入院する子供達に靴下型の小物入れにおやつを入れて配り、子供達は満面の笑顔を提供してくれた。

今後も桃の節句や端午の節句などに、各部署で工夫を凝らした演出を継続していきたいが、まずは玄関の門松から！



診療科		月	火	水	木	金
外来受付 A	小児科	原 良紀	鈴崎 竜範	只木 弘美	鍋木 陽一	塩谷 裕美
		鍋木 陽一	福山 綾子	伊波 勇輝	小林 孝輔	高橋 篤史
		加藤 愛美	野原 千広	平井 夏世	高橋 英里佳	松澤 崇
	心臓血管外科	佐藤 大樹	休診日(手術日)	盆子原 幸宏	休診日(手術日)	久米 悠太
		和唐 純平	村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃
	整形外科	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	佐藤 雅経
		堀 莉彩	佐藤 雅経	小澤 祐樹	堀 莉彩	吉田 智隆
		吉田 智隆	小澤 祐樹	齋藤 魁	倉兼 猛	倉兼 猛
		齋藤 魁	日野 勝利			
	外来受付 B	総合内科	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師
糖尿病内分泌内科		田島 一樹	田島 一樹	田島 一樹	末園 太一	田島 一樹
		末園 太一		高橋 麻侑子	宇治原 誠	
脳神経内科		小島 麻里	休診日	高橋 竜哉	鈴木 聡	渡邊 裕樹
腎臓内科		松下 啓	毛利 史将	松下 啓	牧内 睦美	休診日
呼吸器内科		須藤 成人	金子 舞	本林 優人	休診日	梶田 至仁
消化器内科		鈴木 雅人 (第1・3・5曜日)	山口 裕佳 (第1・3・5曜日)	小川 祐二 (第1・3・5曜日)	細矢 さやか (第1・3・5曜日)	山田 英司 (第1・3・5曜日)
		野中 敬 (第2・4曜日)	松島 昭三 (第2・4曜日)	小松 達司 (第2・4曜日)	上地 大樹 (第2・4曜日)	葛生 健人 (第2・4曜日)
循環器内科		森 文章	森 文章	塚本 圭 (第1・3・5曜日)	齋藤 貴士	森 文章
膠原病・リウマチ内科		井畑 淳	関口 章子	井畑 淳	井畑 淳	井畑 淳
外科・消化器外科	柿添 学	藤井 義郎	木村 準	藤井 義郎	休診日 (手術日)	
	山本 悠史	藤原 大樹	松田 悟郎	清水 哲也		
	大石 裕佳	太田 郁子 (乳腺外科)	矢澤 慶一	堀井 伸利		
呼吸器外科	休診日 (手術日)	増田 晴彦	休診日 (手術日)	渡部 克也	渡部 克也 (第1・3・5曜日) 増田 晴彦 (第2・4曜日) 高原 宏輔 (第1・3・5曜日) 谷野 慎 (第2・4曜日)	
脳神経外科	休診日 (手術日)	岡田 富 (第1・3・5曜日) 宮原 宏輔 (第2・4曜日)	瓜生 康浩 (第1・3・5曜日) 野田 尚志 (第2曜日) 関口 徳朗 (第4曜日)	休診日 (手術日)		
外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	西本 寛志	佐々木 祐幸	西本 寛志	交代医師
	眼科	木村 正彦	永田 有司	岡部 智子	木村 正彦	鈴木 亮太
		藤田 智子	岡部 智子	鈴木 亮太	永田 有司	藤田 智子
	泌尿器科	今野 真思	平井 耕太郎 (第1・3・4曜日)	休診日 (手術日)	平井 耕太郎	今野 真思 (第1・2・4曜日)
		浅岡 美保	宮井 敏孝 (第1・2・3曜日)		宮井 敏孝	浅岡 美保 (第2・3・4曜日)
藤岡 あずみ (第2・4曜日)		交代医師 (第5曜日)			藤岡 あずみ (第1・3曜日) 交代医師 (第5曜日)	
皮膚科	上田 喬士	上田 喬士	休診日 (手術日)	上田 喬士	上田 喬士	
	飼沼 実優	飼沼 実優		飼沼 実優	飼沼 実優	
外来受付 D	精神科	休診日	休診日	交代医師	交代医師	交代医師
	産婦人科	向田 一憲	奥田 美加	内山 亜弥	乗杉 輝彦	小林 奈津子
		萩原 真由美/魚本 真理	高山 智子	下向 麻由/渡邊 希望	交代医師	楚南 侑子
	産科	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)
	歯科口腔外科		根岸 明秀		根岸 明秀	
		渡辺 大智		渡辺 大智		
専門外来 (予約制)	脳神経内科	物忘れ外来	頭痛外来 (第2・4曜日)			
	膠原病・リウマチ内科			関節超音波		
	呼吸器内科	アスベスト外来 (第1曜日)				
	脳神経外科			脳神経血管内治療外来 野田 尚志(第1・3・5曜日) 関口 徳朗(第2・4 曜日)		脳神経血管内治療外来 田中 悠介
	放射線科	杉山 正人	杉山 正人	杉山 正人	幡多 政治	杉山 正人
精神科	物忘れ外来				物忘れ外来	

初診受付：(平日) 8:30~10:30

休診日：土曜日・日曜日・祝日・12月29日~1月3日

※急患は随時受け付けております。来院前に病院にご連絡下さい。(代表)045-851-2621

※ 青色の枠の担当医 は、完全予約制、黄色の枠の担当医 は前月からの変更箇所となります。

◆編集後記◆

日本国内では緊急事態宣言が明けても新型コロナウイルス感染者の低水準が続き、一部の制限はあるものの2年ぶりに本格的な忘・新年会の宴が催せるかと浮かれていたら、突然、新たな変異株が出現しその高揚が一気に萎えてしまった。初詣では、家内安全や健康祈願以外で2年連続同じ内容を神様をお願いするというのも人生で初めてな気がするが、これが3年連続とならないことを強く願いお賽銭も奮発してきた。